

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 12 月 3 日 (2020.12.3)

【公開番号】特開 2019-76397 (P2019-76397A)

【公開日】令和 1 年 5 月 23 日 (2019.5.23)

【年通号数】公開・登録公報 2019-019

【出願番号】特願 2017-205627 (P2017-205627)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 1 2 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 10 月 23 日 (2020.10.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

始動口への入球に起因して大当たりとするか否かの当否判定を低確率又は該低確率よりも高い確率の高確率にて実行する当否判定手段と、

前記当否判定の結果が大当たりであるときに図柄の変動表示を行った後に所定の大当たり図柄を確定表示する図柄表示手段と、

前記所定の大当たり図柄が確定表示されたことに基づいて、大入賞口を複数回のラウンドに亘って連続して開放する大当たり遊技状態に制御する大当たり遊技制御手段と、

前記大入賞口の内部に設けられた確変口と、

前記確変口を遊技球が通過することに基づいて、大当たり遊技状態の終了後に前記低確率から高確率に確率変動させる確率変動手段と、

前記複数回のラウンドの内の少なくとも特定ラウンドにおいて、遊技球が通過不能状態にある前記確変口を、所定の開放動作を実行することで、通過可能状態に変化させる振分手段と、

前記振分手段の前記所定の開放動作を実行する振分制御手段と、を備え、

前記大当たり図柄は、大当たり遊技状態終了後に前記確率変動が作動することを予定する確変図柄と、予定しない通常図柄を備え、

大当たり遊技制御手段は、前記特定ラウンドにおいて、前記確変図柄および前記通常図柄の何れが確定表示されても、同じ開放時間で大入賞口の開放を実行する遊技機であって、

前記大当たり遊技制御手段は、少なくとも前記特定ラウンドにおいて、大入賞口に入球した遊技球の個数が予め定められた規定個数に到達したとき、大入賞口の前記開放を終了させ、

前記振分制御手段は、

前記振分手段の所定の開放動作を実行可能であると共に、前記特定ラウンドにおいて大入賞口の開放に基づいて開始し、前記大入賞口の閉鎖に基づいて終了する振分動作可能期間と、

振分手段の前記所定の開放動作として、前記確変口に遊技球が通過困難な前記通過可能状態とするショート開放動作と、前記確変口に遊技球が通過容易な前記通過可能状態とするロング開放動作と、

前記特定ラウンドにおいて、前記通常図柄が確定表示されたことに因り大入賞口が前記

開放するときはショート開放動作のみを実行し、前記確変図柄が確定表示されたことに因り大入賞口が前記開放するときはショート開放動作を実行した後でロング開放動作を実行する開放動作制御手段と、を備え、

前記開放動作制御手段は、

前記ショート開放動作を、前記大入賞口の開放に基づく第1開始条件の成立に起因して開始し、

前記ロング開放動作を、前記大入賞口に入球した遊技球の個数に基づく第2開始条件の成立に起因して開始し、

前記ロング開放動作を、予め定められた所定時間に基づいて終了すること、
を特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

上記課題に鑑みてなされた請求項1に係る発明は、始動口への入球に起因して大当たりとするか否かの当否判定を低確率又は該低確率よりも高い確率の高確率にて実行する当否判定手段と、当否判定の結果が大当たりであるときに図柄の変動表示を行った後に所定の大当たり図柄を確定表示する図柄表示手段と、所定の大当たり図柄が確定表示されたことに基づいて、大入賞口を複数回のラウンドに亘って連続して開放する大当たり遊技状態に制御する大当たり遊技制御手段と、大入賞口の内部に設けられた確変口と、確変口を遊技球が通過することに基づいて、大当たり遊技状態の終了後に低確率から高確率に確率変動させる確率変動手段と、複数回のラウンドの内の少なくとも特定ラウンドにおいて、遊技球が通過不能状態にある確変口を、所定の開放動作を実行することで、通過可能状態に変化させる振分手段と、振分手段の所定の開放動作を実行する振分制御手段と、を備え、大当たり図柄は、大当たり遊技状態終了後に確率変動が作動することを予定する確変図柄と、予定しない通常図柄を備え、大当たり遊技制御手段は、特定ラウンドにおいて、確変図柄および通常図柄の何れが確定表示されても、同じ開放時間で大入賞口の開放を実行する遊技機に関するものである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

この遊技機は、大当たり遊技制御手段は、少なくとも特定ラウンドにおいて、大入賞口に入球した遊技球の個数が予め定められた規定個数に到達したとき、大入賞口の開放を終了させ、振分制御手段は、振分手段の所定の開放動作を実行可能であると共に、特定ラウンドにおいて大入賞口の開放に基づいて開始し、大入賞口の閉鎖に基づいて終了する振分動作可能期間と、振分手段の所定の開放動作として、確変口に遊技球が通過困難な通過可能状態とするショート開放動作と、確変口に遊技球が通過容易な通過可能状態とするロング開放動作と、特定ラウンドにおいて、通常図柄が確定表示されたことに因り大入賞口が開放するときはショート開放動作のみを実行し、確変図柄が確定表示されたことに因り大入賞口が開放するときはショート開放動作を実行した後でロング開放動作を実行する開放動作制御手段と、を備え、開放動作制御手段は、ショート開放動作を、大入賞口の開放に基づく第1開始条件の成立に起因して開始し、ロング開放動作を、大入賞口に入球した遊技球の個数に基づく第2開始条件の成立に起因して開始し、ロング開放動作を、予め定められた所定時間に基づいて終了する。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

なお、上記課題に鑑みてなされた参考発明は、始動口への入球に起因して大当たりとするか否かの当否判定を低確率又は該低確率よりも高い確率の高確率にて実行する当否判定手段と、当否判定の結果が大当たりであるときに図柄の変動表示を行った後に所定の大当たり図柄を確定表示する図柄表示手段と、所定の大当たり図柄が確定表示されたことに基づいて、大入賞口を複数回のラウンドに亘って連続して開放する大当たり遊技状態に制御する大当たり遊技制御手段と、大入賞口の内部に設けられた確変口と、確変口を遊技球が通過することに基づいて、大当たり遊技状態の終了後に低確率から高確率に確率変動させる確率変動手段と、複数回のラウンドの内の少なくとも特定ラウンドにおいて、遊技球が通過不能状態にある確変口を、所定の開放動作を実行することで、通過可能状態に変化させる振分手段と、振分手段の所定の開放動作を実行する振分制御手段と、を備え、大当たり図柄は、大当たり遊技状態終了後に確率変動が作動することを予定する確変図柄と、予定しない通常図柄を備え、大当たり遊技制御手段は、特定ラウンドにおいて、通常図柄が確定表示されたときには大入賞口の短期間開放を実行し、確変図柄が確定表示されたときには大入賞口の長期間開放を実行する遊技機に関するものである。

この遊技機は、大入賞口に入球した遊技球を検知するカウント検知手段と、カウント検知手段が検知した遊技球の個数を計数すると共に遊技球の個数が予め定められた規定個数に到達したか否かを判定するカウント計数判定手段と、を備え、大当たり遊技制御手段は、少なくとも特定ラウンドにおいて、カウント計数判定手段が規定個数に到達したと判定したとき、大入賞口の長期間開放を終了させ、振分制御手段は、振分手段の所定の開放動作を実行可能であると共に、特定ラウンドにおいて大入賞口の開放に基づいて開始し、大入賞口の閉鎖から所定の閉鎖待機時間の経過に基づいて終了する振分動作可能期間と、振分手段の所定の開放動作として、確変口に遊技球が通過困難な通過可能状態とするショート開放動作と、確変口に遊技球が通過容易な通過可能状態とするロング開放動作と、大入賞口が短期間開放するときはショート開放動作を実行し、大入賞口が長期間開放するときはショート開放動作を実行した後でロング開放動作を実行する開放動作制御手段と、を備え、開放動作制御手段は、ショート開放動作を、大入賞口の開放に基づく第1開始条件の成立に起因して開始し、ロング開放動作を、カウント計数判定手段による規定個数と僅差の所定個数の検知に基づく第2開始条件の成立に起因して開始し、ロング開放動作を、予め定められたロング開放時間の満了、又は振分動作可能期間の終了の何れか早く成立したことに基づいて終了する。

このように構成することにより、振分手段のショート開放動作を、大入賞口の開放に基づく第1開始条件の成立に起因して開始するので、大当たり後の確率変動を許容しない通常図柄で大当たりした場合でもショート開放時の遊技球の確変口への通過を担保する、ことができる。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

なお、遊技機は、振分動作可能期間の終了の契機となる大入賞口の閉鎖から所定の閉鎖待機時間の経過は、特定ラウンドの終了後に実行される終了インターバルの終了であることとする、ようにしても良い。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 6 】

なお、遊技機は、開放動作制御手段は、第 2 開始条件の成立に起因してロング開放時間の計測を開始するロング開放時間カウンタを備え、ロング開放時間が満了する前に振分動作可能期間が終了したときは、ロング開放時間カウンタのカウント値が残っていてもロング開放動作を終了するようにしても良い。